
73話 夢物語

吉川明人

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

73話 夢物語

【Nコード】

N5753K

【作者名】

吉川明人

【あらすじ】

ショートショートです。この星には身長10mを超える住人と、姿形はよく似ているイタズラ好きの身長1mに満たない生き物が暮らしている。

身長10メートルは優に超える人間がのし歩く風景。

それがこの星の住人だ。

これほど大きい理由は、年間を通じて氷点下の低い気温が続く気候にある。

昼間に受ける太陽の熱と食料から得られる体温が、夜から朝にかけて失われてしまわないためには、大量のお湯の方が少しでも冷めにくいように、体そのものを大きなタンクにする必要があるのだ。

そんな彼らにとって唯一頭を悩ませる小動物がいた。

姿形は彼らと似ているが大きさは1メートルにも満たず、地中に巣穴を掘って住んでいる。

他の動物よりも頭が良くイタズラ好きで、うっかりするとケガをさせられてしまうことがあるのだ。

仕方なく人々は小動物が悪さをしないよう、あちこちに罾を仕掛けては、せつせと退治していた。

この星の地中深くには、一枚のプレートが埋められている。

人類、そして小動物に内容は理解できないが、もし翻訳すればこ
う読める……

『地球温暖化の進行は、我々人類の手には負えなかった。

人類の命運を賭けて建設した地下シェルターへは、高温多湿のため人類の身長がどんどん小さくなったことが幸いし、できるだけ多くの人々を選んだ上での移住が完了しているが、その機能がいつまで持つのか分からない。

それよりも、過去の地球の歴史を見る限り、温暖化とは氷河期が始まる予兆なのだ。

大部分の地上に残される人々がこの先どうなるのか、シェルターに避難した人々と同様に何の保証もない。願わくば我々人類に幸多かれと祈る。

西暦 2614 記

数万年後。

煙突から絶え間なく黒煙が立ちのぼっている風景が見える部屋で、書類に埋もれた机でタイプライターを打ちながら、男が早口でしゃべっている。

「……そんな事より、蒸気の色を使って走る車ができたんだって！
ウソだと思ったら、明日、町の広場に来てみるよ！」

まったく、この産業革命まった中の時代に、巨人だ小人だなんて下らない童話の話なんてやめてくれ！」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5753k/>

73話 夢物語

2011年1月15日23時33分発行